

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 大阪府教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 活動名 「 ヒントで当てよう? 」	
(2) 対象児童の実態 (2 人)	
A 児	第 2 学年国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (日本生まれ 第 1 学年 1 学期に編入)
	・第 1 学年 1 学期の終わりから日本語教室で勉強した。学校生活に必要な日本語もすぐに覚え、いろいろなことに興味をもち学習することができた。 ・平仮名・片仮名もよく覚えている。
B 児	第 3 学年国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (中国生まれ 第 2 学年 2 学期に編入)
	・平仮名、身近なものの名前、挨拶などの学習から始めた。また、体験したことと言葉を結びつけた言葉の学習もした。絵本の読み聞かせを始めたが、読むことにも興味をもち、自分でも読もうとしている。
(3) 目標 ◇【教科指導の目標】 ・お互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うことができる。 ・絵などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすることができる。 ◆【日本語指導の目標】 ・色や形、場所について話すことができる。 ・クイズのヒントから正解の絵をイメージし、より明確化するために質問することができ、大切な情報を聞くことができる。	

2 学習活動

指導者（教科担任，学級担任），指導補助者（外国人指導コーディネーター，外部指導員，等） 日本語教室担当				
全体の時間数（2 時間）				
段階	学習活動の状況，指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
体験 探求	第1時 ①クイズ『ヒントで当てよう？』に参加し，クイズのやり方を知る。	取り出し	・身近な動植物をクイズにし，慣れるまでクイズをいくつか行う。 ・スリーヒントで当てさせる。 ・3回目の質問で正解が出るようにヒントを出す。 色・形・場所など，動植物の特徴が捉えられる項目を用意する。	◇【A-1】*体験 知識を確認する。 「ヒントで当てよう？」 ◆【C-2】*探求 形状などを観察する。 ①「きつねです。」 ②「みどりのふくをきています。」 ③「つみきであそんでいます。」
体験 探求	第2時 ①前時の確認をする。 ②『ヒントで当てよう？』のクイズを作る。 ③クイズの出し方を確認する。	取り出し	・クイズにする絵をホワイトボードに貼る。 ・絵の中に出てくるものの名前を確認する。 ・クイズの見本を見せる。 ・質問カードの項目を基に，三つのヒントを考えさせる。 ・質問時に，質問カードを示して利用させる。 ・クイズの出し方の確認で「ですます体」を使うように伝える。	◇【A-6】*体験 共有経験を確認する。 「クイズをしたことを覚えていますか？」 「はい，覚えています。」 ◇【C-7】探求 違いを観察する。 「～にいます。」

3 成果

① 対象児童に対する成果

- ・ 「～にいます。」(場所)等の言い方を知り、問題を出すことができるようになった。
- ・ 二人とも3回目(4回目)まで聞かないと分からないように、問題を工夫していた。
- ・ 二人とも3つあるいは4つのヒントをよく聞き、絵の中から探すことができた。

4 課題

○この学習においては、集中して「聞く・話す」ということができていたが、教室での学習や、友だちどうしのコミュニケーションにおいてもできるようになることが課題である。

自作教材「クイズの絵」

